



校長通信

No.19 令和2年12月24日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

夏休みの短縮により、8月17日にスタートした、長い長い令和2年度の2学期でしたが、本日、無事、終業式を迎えることができました。保護者の皆様方には、年末のたいへんお忙しい中、担任との個人面談に出席いただき、ありがとうございました。お子様の学校での様子、また、ご家庭での様子を話し合い、2学期の成長を確認する貴重な機会になったかと思えます。

さて、2学期は、河北祭、修学旅行、校外学習、体験学習など、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、たくさんの行事を経験し、子供たちは一回り大きくなったように思います。3学期も、更なる活躍を期待しています。特に、3年生は、進路に向けて、学力検査試験があります。健康に留意し、自分の明るい未来を切り開くため、しっかりと学習に励んでくれることを期待しています。

この1年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症に大きな影響を受けた年となったことを実感します。3月2日から臨時休業となり、新年度、1学期の始業式をスタートしたのは6月でした。学校がスタートしても、ウイルス感染拡大を避けるため、行事を削除したり、計画を大幅に変更したりしました。特に3年生にとっては、部活の最後の大会やコンクールが中止になってしまい、やり場のない怒り、悲しみ、虚しさに打ちひしがれたと思います。しかし、それらの困難を乗り越え、本校の生徒達は、とても前向きに学習し、行事に参加してくれました。

わたし自身の1年を振り返ると、1月6日の始業式、当時、勤める湊小学校の子どもたちに、1年の目標を決め、それに向けて、努力することの大切さを話しました。その際、私自身の目標、この1年間で、時間を見つけて、和歌山県内の10以上の山を歩いて登頂すると宣言しました。新型コロナウイルスで、土・日の行事が大幅に減ったこともあり、結局、県内30の山を登りました。

山登りはしんどいですが、頂上についた時の喜びは、何物にも代え難く、見下ろす景色は最高です。人生は、山登りに例えられることが多いですが、仕事上の困難、つらいことを乗り越えた時の達成感と似ています。3密を避け、お金もあまりかからず、景色を見て、その地理や地形の特色を知ることができる。コロナ禍に対応した、私の新たな趣味となりました。来年も、無理をしない範囲で、山登りを楽しみたいと思います。そして、気力・体力を充実させ、教職員と一丸となって、任務を遂行していきます。

河北中学校の子供たち、保護者の皆様の来年のご多幸をお祈りし、今年最後の校長通信の筆を置きたいと思います。来年も、よろしく願います。

